

開成の杜

第76号 ●2008年6月2日 ●郡山女子大学大学院 ●郡山女子大学 ●郡山女子大学短期大学部 ●郡山女子大学附属高等学校 ●郡山女子大学附属幼稚園

●発行所/学校法人郡山開成学園〒963-8503 郡山市開成3丁目25番2号 ☎024(932)4848(代) <http://www.koriyama-kgc.ac.jp> ●発行人/学園長 関口富左



桜花の下で楽しいと……。

(撮影 山口郁生)

本校は、学園教育全容に亘り、広く学内各校にその状況を知らせ、互いに各学種(大学院・大学・短期大学・高等学校・幼稚園)についての状況周知を図ることの季刊紙として発行してきた。

本校法人郡山開成学園は、創立以来六十余年の歴史を重ね、今日に至っている。その間、「短大を」「大学を」「大学院を」「高校を」と、女子の高等教育を基点として各学種に亘っての教育内容を広く容易に知らせるべき本紙を、学園状況内容を以ての季刊新聞「開成の杜」として出版してきた。

学校法人郡山開成学園は、六十余年を経るにおいて、その内容も多様に亘り、学種毎の教育状況、行事等々を学園人に伝え、互いにその方針、計画、実施内容等、一層充実するべく各校の教員・学生・生徒、その他「父兄各位にも御理

杜の深淵さは、一層濃く、学園の静けさを今日も伝えている。

東を見れば雲水峰の霊峰。北に安達太良。北西に懐かしい磐梯。西南に那須連邦の美景。

遠く、夕焼空の都を憶う。

(H20.5.14記)

さて、本年も新年度発行の「開成の杜」の出版を実施。

本紙は、学園教育全容に亘り、広く学内各校にその状況を知らせ、互いに各学種(大学院・大学・短期大学・高等学校・幼稚園)についての状況周知を図ることの季刊紙として発行してきた。

「知るは理解の始めであり、理解は新たな発想をも産む」ものであろう。奮つての学内各校、各部署の研究状況・成果等の報告を望む。

学生部、学友会諸子の状況等の発表もどうぞ……。

桜花爛漫の花の下、新入学生に聞かれると、例年の事ながら新たな偉いに満ちたされる。

学生と共に居る!! 学生の元氣満々たるその美しさは、新鮮にして意気盛んである。その諸様相に誘われて、こちらにも元氣が伝わり、喜びを共にする。嬉しさかな……。

解と参加等を求めてきた。尚また、広く社会全体の要所にも学園教育の内容、在り方等を御理解頂く方途も含めての出版であった。

この「開成の杜」の、発行より第七十号まで全五百七十八頁を一括大冊として編集し、広く連携的理解を得るべく発刊した。学園各所には申すまでもなく、学外の諸機関にも送付提供するなど、いささかその役割を回り得たと自負している。従って今年度も更に新たな学園教育、行事の様相、内容等の周知を図るべく計画し、この度の編集出版となったのである。

知るは心親しく、更にまた新領域を捉え、学の新たな方途を求めべく継続発刊に及んだのである。

学園人各位は申すまでもなく、更によき知恵、内容表現等、多くの案件を得るべく、この度の運びに至ったのである。

了承、周知、理解、参画等。諸氏の研究成果、発表を求めるものである。



学園長 関口 富左

『開成の杜』継続出版について

学園創立六十二周年 節目を祝う記念式典

吾子よ健やかに 心と心を結ぶ大合唱



「吾子よ」を歌う大学・短大教職員の大合唱

昭和二十二年、郡山女子専門学校として創設された本学園は、短期大学・附属幼稚園・附属高等学校・大学・大学院を擁する女子の総合学園として拡大、拡充を続けた。その間、実技中心の従来の家政学から哲学的基盤を持たせた人間守護の家政学を樹立、新しい家政学を広めた。そして六十二周年。

建学の精神は「尊敬・責任・自由」

式典で学園創設者の関口富左衛門長は創設時を振り返って、教育目標を「尊敬・責任・自由」とし、お互いの個性を尊重し、理解する「個」の確立と「他」との協調をもつて、自主、自立できる女性としての人間育成を図ってきたと述べた。そして、ここまで成長した際には「教職員が持てる力を発揮した」と教職員一人ひとりの学園にかけた熱意に敬意を表した。節目を祝う式典では、全教職員が壇上から「吾子よ健やかに」と

永年勤続者を表彰

式典では永年勤続者の表彰があり、満十年から四十年勤続の十二名に関口学園長から表彰状と記念品が送られた。

表彰者は次の通り(敬称略)。

【勤続四十年】▲大学/庄司一郎 ▲短大/中川英子・鍋山友子
【勤続三十年】▲短大/大石 尚
【勤続二十年】▲大学/熊田伸子 ▲高校/宗形盛夫・渡邊泰夫 ▲事務局/和知 剛



表彰者(大学・事務局)



表彰者(高校・事務局)

幼稚園でも祝う

附属幼稚園では一日早い二十一日に学園創立六十二周年をお祝いした。関口富左衛門長が「学園はあす六十二歳の誕生日を迎えます。お祝いしましょう」と述べ、幼稚園のおやくそく「よくみる よくきく よくかんがえて」をみんなですくを合わせた。



幼稚園の旗を掲げて学園の歴史を語る関口富左衛門長

創立六十二周年記念 平成二十年度第一回教養講座

「漢詩と文化」(大学・短大の部)

前二松学舎大学学長 漢字文化研究会理事 石川 忠久 氏



漢字を学びたいと語る石川先生

創立六十二周年記念平成二十年度第一回教養講座は四月二十二日、記念式典のあと石川忠久氏が講演した。大学の部では「漢字と文化」と題して講演された。

平成十九年度第二回教養講座 「日本の和の文化」

野間文化芸術大学学長 川勝 平太 氏



自然との調和を熱く語る川勝先生

平成十九年度第二回教養講座は十二月十一日、建学記念講堂で開催された。講師は野間文化芸術大学学長の川勝平太氏。

森を鎮守と崇めた日本人の自然感と地球環境について語った。以下は大学の部の講演要旨。地球環境と人間との関係が今不調和になっている。文明は森林を伐採し植林をしないまま緑をなくした。われわれが排出している二酸化炭素は地球の温度を上げている。このまま温暖化が進行すると、天候不順による災害が地球を侵し、

日本人がまだ文字を持たない時代に中国から漢字が渡ってきた。それを貰って日本人は表記する手段を考えた。漢字を元に万葉がな、次いでカタカナ、ひらがなを造った。そして語順の違う中国の文章を工夫して翻訳した。

「我登り山」我は山に登る。

「我説漢文」我は漢文を読む。

このように「一、二の点をつける方法」を編み出した。漢文訓読法である。これにより中国の古典を吸収し、論語も孟子も自前で読めるようになった。平安朝、奈良朝の人たちは早くもこの方法で勉強した。その土台の上に和歌や物語などの日本文化が築かれた。日本人は漢字を基にした日本語と中国の古典の両方を身に

大自然の中で新入生が宿泊研修

新入学生を対象とした学外オリエンテーションが四月二十三日から二十六日まで、大学生・短大生五百六名が三班に分かれて宿泊研修した。会場は裏磐梯のホテル。入学後の大学生活への円滑な導入と通学を円滑にするが目的で、教師との共同宿泊研修により学業への取り組みと相互親睦を深めた。

開講式ではビデオによる学校案内を鑑賞し、学園の歴史を理解した。また、各学科ごとに分かれてそれぞれの科での学習内容を確認した。



開成式で自然と学業の両方を学ぶ新入生

奨学生へ認定書授与
関口育英奨学金制度スタート

学業に優れ、健康で他の模範となる人物を育成する本学園独自の育英奨学金制度がこの春の入学生からスタートした。

「学校法人開成学園創立者関口育英奨学金制度」の初の奨学生認定式が三月二十五日、創学館



奨学生に認定書授与

大会議室で行われた。

新大学生、短大生、高校生の各十名が保護者と一緒に出席、関口学園長が計三十名に奨学生証を授与した。これに対し、奨学生代表が挨拶し、御礼のことばと共に学業に励むことを誓った。

なお、認定された大学、短大の各十名には月額二万円、高校生に月額一万円が入学式後に支給された。

四番目の「開成の杜」

熱海町安子ヶ島 国有林内で植樹

自然環境の保全や育成に取り組む本学園では、本年度の学習の一環として五月十二日から十六日まで、四番目となる学校林「安子ヶ島開成の杜」に約五千本を植えた。本学園は平成八年、創立五十周年を記念して関東森林管理局と契約し、国有林の中に、「開成の杜」



植樹に汗を流す学生・生徒

を造成し、地球環境保全、緑化思想の大切さを学んできた。

これまでに、郡山市熱海町地内の鞍手山に約五千本、須賀川市長沼町の高山山に約四千二百本、石巻の学園総合教育園に約七千本を学生、生徒、教職員の全員の手で植樹し、森の役割、自然の摂理を学習してきた。

今年は、安子ヶ島地内の国有林に、二千三百人が五日間に一人平均二本の樹を植えた。

杜のなかで

教養教育について一考

近年、大学教育における、細分化された専門教育優先という現状に対して、教養教育を見直す機運が生じてきていることは周知のとおりである。そこで、教養教育について少し考えてみることにしたい。

辞典をみると、教養という言葉の意味は多岐である。また、英語では、culture(養育、つまり自分を養う)という言葉が、独語では、Bildung(造り上げる、すなわち自分を造り上げる)という言葉が当てられている。こうしたことから言えることは、教養教育とは、人間の成熟と知的成熟を促すこと、すなわち人間を造り上げるということである。従って、教養教育の射程は人文、社会、自然と広範囲に及ぶ。歴史的にみると、一般教養の原型は、すでに十二世紀ヨーロッパに誕生した大学に存在したといわれ、そこでは、教養科目を示す「リ

ベラル・アーツ(自由な技)として、①共通語であるラテン語を学ぶ際に修得しなければならない「アーツ」である、文法、論理、修辭学(説得的な文章を書くための技)の三科、②自然を認識するための「アーツ」である、天文学、算術、幾何学、音楽の四科、の計七科が必須科目として定められていたという。今様に言えば、文系と理系の総合ということである。

ヨーロッパに端を発した、この教養という概念を大学教育において継承したのは、実はヨーロッパではなく、アメリカであったといわれる。アメリカがイギリスやフランスの植民地であった十七世紀前半以降に宣教師によって設置された、ハーヴァード、イエール、コロンビア、ブラウン、ペンシルベニア、プリンストン、コーネル、ダートマスなどの私立大学がそれぞれこの八つの私立大学がそれぞれある。この八つの大学は「リベラル・アーツ・カレッジ」と呼ばれ、例えばハーヴァード大学の本体は、決して専門家を養成する機関ではなく、良きエリート市民を養成する

機関であり、それゆえ、そこでは様々な学問を幅広く学ぶことを求められているという。そして専門教育は大学院で受けることになるという。戦後、日本はアメリカの教育制度を受け入れたが、アメリカのリベラル・アーツ教育は、大学の学部・学科制度への中途半端な導入となり、極めてわずかな例を除いて、リベラル・アーツの精神は日本の大学にうけつたことがなかったといわれる。

こうしたなかで本学は、「尊敬」「責任」「自由」の建学の精神、創立以来の芸術鑑賞講座、教養講座、宗教に関する必修科目、などに象徴されるように、人間のおよび知的成熟をねらいとして教養教育を教育の基本としてきたといえる。この伝統をさらに発展させるために、建学の精神の具現化、教養課程の拡充、教養科目の各学年開講、広い視野に基づく専門教育、などの検討が望まれると考える。(編)

参考文獻：村上隆一郎「やりなおし教養講座」二〇〇四年

特集 研修紀行

大学・短期大学部

大学と短大ではこの春、海外に、国内に分かれての研修旅行を実施した。それぞれの学科の特徴を生かした研修で見聞を広めた。

【海外研修で学んできたこと】

人間生活学科 藤井 美香

私たちは二月に六泊八日でパリとローマへ研修に行ってきました。

衣食住・福祉・経営をテーマに、パリではランジス総合市場や女性市民社会連合、高齢者福祉施設などを訪問させていただいたり、ローマでは日本語を学んでいる現地学生と共に地下鉄に乗りたりして、身近な生活の場を見学することができました。また、私は建築の勉強をしているのですが、日本と異なる特徴の様々な建築物を実際に見ることに、ヨーロッパ建築の杜大さや細部にまで施された技術力に圧倒されるとともに、建築への関心が一層高まりました。

【沖縄研修旅行を通して】

生活資料科 半澤 優子

私たちは二泊三日の日程で沖縄の伝統工芸、歴史など多岐にわたる研修旅行を体験してきました。

世界最大級の水槽を有する海洋博物館公園などの魅力的な観光名所が溢れる沖縄ですが、特に印象的だったのは琉球ガラスでした。琉球ガラスの中に、沖縄の豊かな海を見、独特の歴史背景の中で培われた美しさを感じました。首里城の朱色、エメラルドグリーン、海、沖縄の風土から生み出される美しい色彩に魅了されました。しかし、その反面で戦争時の跡も見え、平和な時代に感謝しました。

【異国で感じた温かさ】

幼児教育学科 安田 友利絵

研修旅行は、感動の連続で印象深くに残っています。

幼稚園と保育所の視察では、子ども一人ひとりの個性を尊重した自由な雰囲気を感じ、その温かい空気にとっても魅力を感じました。また、ホームステイでは日本のようにお客としてもてなすのではなく、普段通りの生活がありました。食事やジャガイモ中心、シャワーだけのお風呂など生活スタイルの

音楽科では三月九日国内オペラ研修旅行を実施、東京サントリートールでモーツァルトの「フィガロの結婚」全四幕を鑑賞しました。

【オペラを鑑賞】

音楽科 氏家 理子

指揮者のニコラ・ルイゾツケイのもと、歌手もほとんど若い勢いのイタリア人を起用、演出は現在イタリアで最も実力者といわれる演劇界の重鎮、ガブリエーレ・ラヴィ

ア氏で見応えのある公演となりました。特に「フィガロの結婚」のアリアは私たちが音楽の授業で勉強することも多く、鍛えられた一流の歌唱力に圧倒されるばかりでした。

【中国研修旅行を経て】

文化学科 佐藤 奈津美

今回の研修旅行は、気流の乱れによる不安定な空の旅から始まりました。翌日訪れた中国の観光名所である万里の長城では広大な景色に圧倒され、その「世界遺産」を記憶に刻み込みました。北京では、天安門広場から故宮へと歩き通しましたが、中国のスケールの大きさを身をもって感じました。旅は西安に移り、教科書でしか目にしたことのなかった兵馬俑博物館を見学しました。友人と共に兵馬俑の御縁美に感嘆しました。旅の終わりは上海。今回のクライマックスともいうべき上海夜景は、私にとって残念ながら満喫するまでのものではありませんでした。しかし、五泊六日の研修は私にとって短大生活の一番の思い出であり有意義な時間となりました。



ドイツの森の幼稚園にて



ローマで現地の学生と一緒に



沖縄の街角で



毛沢東主席宮バックに

大学院・大学・短期大学部

郡山女子大学大学院第十七回、大学第四十三回、短期大学部第五十九回、短期大学部専攻科第九回の入学式が四月十日、建学記念講堂大ホールで行われた。

郡山開成学園オーケストラによる奏楽のあと式典に入り、大学院修士課程二名、大学百二名、短期大学部四百四名、同専攻科三名が呼ばれ、開成学園理事長が全員の入学を許可した。同時に大学三年への編入生六名の入学も許可した。

地域社会のよき奉仕者であれ、開成学園は告辞の中で、改めて



大学としての口を開き、開成学園

建学の精神「尊敬・責任・自由」の理念を記し「品位を保ち、身も心も美しく磨き、地域社会のよき存在になるべく努力しなさい」と大學生としての自覚と責任の重さを強調した。

来賓では金澤市家族会会長、安齊悦子郡山女子大学短期大学部同窓会会長が入学を祝った。

続いて附属幼稚園三年の橋本美樹さん、附属幼稚園児の坂上萌通さん、佐藤央さんが「幼稚園へも遊びに来てくださーい」と歓迎した。

また、在校生の山下奈緒子さん、大学・食物栄養学科四年は、学園生活に有意義に過ごしたことを勧め、先輩からのエールを送った。

そして大学院の石川雅子さん、短期大学部文化学科の田母神明望さんが入学者を代表して「学問探究に励みます」と誓いの言葉を述べた。

私が郡山女子大学を志願した理由



大学院修士課程 石川 雅子

私は、本学家庭学部食物栄養学科を卒業し、現在、短期大学部家政科食物栄養専攻の助手として勤務しております。より高度な学問が要求されている中でさらに人間性や専門性を高めるべく、大学院への進学を決意しました。

人間関係の理念を基に、生活の充実発展に寄与できるよう、研究に取り組みたいです。



大学人間生活学科 遠藤 恵

私は、学問を追求するために、大学進学を決意しました。知の領域を広げていき、自ら成長していくことが志を高く持つことができると確信したからです。女子大学だからこそ得ることができ、女性としての品格を磨いていくことも魅力的でした。何事にも意欲的に取り組み、社会に貢献できるように教養を身につけていきたいです。



短期大学部文化学科 田母神 明望

私は、歴史のおもしろさや不思議さ、疑問などを、もっと幅広く深く学びたいと思い、本学の文化学科を志願しました。本文化学科は、片寄った専門分野にとらわれず、幅広く学べるということでも、興味を持しました。また、図書館司書、学芸員補任用資格、社会教育主事補任用資格が取得できるというのも魅力的でした。

入学

入学式

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

入学式 全貌

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

開成の杜に芽吹く 尊敬・責任・自由の徳目

附属高等学校

風薫るさわやかな季節に、せせらぎこみちの桜も新入生を祝うかのようにつぼみが開き始めた四月八日、建学記念講堂に二百四十名の新入生を迎え、厳粛なか盛大に第五十二回入学式が挙行された。

真新しい制服に身を包み、緊張感の中にも希望に満ちた新入生が一人ひとり呼ばれ、開成学園校長と挨拶を交わす姿に、参列している保護者や在校生にもその緊張感や、会場全体が引き締まる感があった。

校長は挨拶で、本学の建学の精神「尊敬・責任・自由」と高校の三目標について話し、自己と他との関係の中で存在する自分を確認し、自分を失うことなく自己の目標に向けて努力することが「私を創る」ことに繋がるので、健康

に充分留意して、充実した学校生活を送ってほしいと述べた。

その後、来賓の学園家族会会長金澤裕氏や高校同窓会佐藤広子会長、それに本学・短大在学生代表、幼稚園児代表、在校生代表の挨拶が続いた。そして新入生を代表して佐藤愛美さんが「誓いの言葉」を述べ、最後に全員で校歌を斉唱し式を閉じた。

入学式の翌々日、先輩が新入生を歓迎する対面式が行われ、クラス代表に花束を贈り入学を祝った。そして学業に部活動に共に精進することを誓い合った。

生徒会が歓迎会

生徒会主催の新入生歓迎会が四月二十八日、建学記念講堂で開催された。生徒会長大河原央さんと副会長大原那央さんの挨拶のあと、アトラクションに移った。新体操部の華麗な踊り、弓道部の一糸乱れぬ「フーランよさこい」、マーチングバンド部のドリル演奏、音楽

部のダンス、スポーツ系三年四組の集団演技が次々と繰り広げられた。新

入生二百四十名は心温まる歓迎に拍手で応え友情の輪を広げた。

に充分留意して、充実した学校生活を送ってほしいと述べた。

その後、来賓の学園家族会会長金澤裕氏や高校同窓会佐藤広子会長、それに本学・短大在学生代表、幼稚園児代表、在校生代表の挨拶が続いた。そして新入生を代表して佐藤愛美さんが「誓いの言葉」を述べ、最後に全員で校歌を斉唱し式を閉じた。

入学式の翌々日、先輩が新入生を歓迎する対面式が行われ、クラス代表に花束を贈り入学を祝った。そして学業に部活動に共に精進することを誓い合った。

生徒会が歓迎会

生徒会主催の新入生歓迎会が四月二十八日、建学記念講堂で開催された。生徒会長大河原央さんと副会長大原那央さんの挨拶のあと、アトラクションに移った。新体操部の華麗な踊り、弓道部の一糸乱れぬ「フーランよさこい」、マーチングバンド部のドリル演奏、音楽

部のダンス、スポーツ系三年四組の集団演技が次々と繰り広げられた。新

入生二百四十名は心温まる歓迎に拍手で応え友情の輪を広げた。

に充分留意して、充実した学校生活を送ってほしいと述べた。

その後、来賓の学園家族会会長金澤裕氏や高校同窓会佐藤広子会長、それに本学・短大在学生代表、幼稚園児代表、在校生代表の挨拶が続いた。そして新入生を代表して佐藤愛美さんが「誓いの言葉」を述べ、最後に全員で校歌を斉唱し式を閉じた。

入学式の翌々日、先輩が新入生を歓迎する対面式が行われ、クラス代表に花束を贈り入学を祝った。そして学業に部活動に共に精進することを誓い合った。

生徒会が歓迎会

生徒会主催の新入生歓迎会が四月二十八日、建学記念講堂で開催された。生徒会長大河原央さんと副会長大原那央さんの挨拶のあと、アトラクションに移った。新体操部の華麗な踊り、弓道部の一糸乱れぬ「フーランよさこい」、マーチングバンド部のドリル演奏、音楽

部のダンス、スポーツ系三年四組の集団演技が次々と繰り広げられた。新

入生二百四十名は心温まる歓迎に拍手で応え友情の輪を広げた。

に充分留意して、充実した学校生活を送ってほしいと述べた。

その後、来賓の学園家族会会長金澤裕氏や高校同窓会佐藤広子会長、それに本学・短大在学生代表、幼稚園児代表、在校生代表の挨拶が続いた。そして新入生を代表して佐藤愛美さんが「誓いの言葉」を述べ、最後に全員で校歌を斉唱し式を閉じた。

入学式の翌々日、先輩が新入生を歓迎する対面式が行われ、クラス代表に花束を贈り入学を祝った。そして学業に部活動に共に精進することを誓い合った。

生徒会が歓迎会

生徒会主催の新入生歓迎会が四月二十八日、建学記念講堂で開催された。生徒会長大河原央さんと副会長大原那央さんの挨拶のあと、アトラクションに移った。新体操部の華麗な踊り、弓道部の一糸乱れぬ「フーランよさこい」、マーチングバンド部のドリル演奏、音楽

部のダンス、スポーツ系三年四組の集団演技が次々と繰り広げられた。新

入生二百四十名は心温まる歓迎に拍手で応え友情の輪を広げた。

に充分留意して、充実した学校生活を送ってほしいと述べた。

その後、来賓の学園家族会会長金澤裕氏や高校同窓会佐藤広子会長、それに本学・短大在学生代表、幼稚園児代表、在校生代表の挨拶が続いた。そして新入生を代表して佐藤愛美さんが「誓いの言葉」を述べ、最後に全員で校歌を斉唱し式を閉じた。

入学式の翌々日、先輩が新入生を歓迎する対面式が行われ、クラス代表に花束を贈り入学を祝った。そして学業に部活動に共に精進することを誓い合った。

生徒会が歓迎会

生徒会主催の新入生歓迎会が四月二十八日、建学記念講堂で開催された。生徒会長大河原央さんと副会長大原那央さんの挨拶のあと、アトラクションに移った。新体操部の華麗な踊り、弓道部の一糸乱れぬ「フーランよさこい」、マーチングバンド部のドリル演奏、音楽

部のダンス、スポーツ系三年四組の集団演技が次々と繰り広げられた。新

入生二百四十名は心温まる歓迎に拍手で応え友情の輪を広げた。

に充分留意して、充実した学校生活を送ってほしいと述べた。

その後、来賓の学園家族会会長金澤裕氏や高校同窓会佐藤広子会長、それに本学・短大在学生代表、幼稚園児代表、在校生代表の挨拶が続いた。そして新入生を代表して佐藤愛美さんが「誓いの言葉」を述べ、最後に全員で校歌を斉唱し式を閉じた。

入学式の翌々日、先輩が新入生を歓迎する対面式が行われ、クラス代表に花束を贈り入学を祝った。そして学業に部活動に共に精進することを誓い合った。

生徒会が歓迎会

生徒会主催の新入生歓迎会が四月二十八日、建学記念講堂で開催された。生徒会長大河原央さんと副会長大原那央さんの挨拶のあと、アトラクションに移った。新体操部の華麗な踊り、弓道部の一糸乱れぬ「フーランよさこい」、マーチングバンド部のドリル演奏、音楽

部のダンス、スポーツ系三年四組の集団演技が次々と繰り広げられた。新

入生二百四十名は心温まる歓迎に拍手で応え友情の輪を広げた。

に充分留意して、充実した学校生活を送ってほしいと述べた。

その後、来賓の学園家族会会長金澤裕氏や高校同窓会佐藤広子会長、それに本学・短大在学生代表、幼稚園児代表、在校生代表の挨拶が続いた。そして新入生を代表して佐藤愛美さんが「誓いの言葉」を述べ、最後に全員で校歌を斉唱し式を閉じた。

入学式の翌々日、先輩が新入生を歓迎する対面式が行われ、クラス代表に花束を贈り入学を祝った。そして学業に部活動に共に精進することを誓い合った。

生徒会が歓迎会

生徒会主催の新入生歓迎会が四月二十八日、建学記念講堂で開催された。生徒会長大河原央さんと副会長大原那央さんの挨拶のあと、アトラクションに移った。新体操部の華麗な踊り、弓道部の一糸乱れぬ「フーランよさこい」、マーチングバンド部のドリル演奏、音楽

部のダンス、スポーツ系三年四組の集団演技が次々と繰り広げられた。新

入生二百四十名は心温まる歓迎に拍手で応え友情の輪を広げた。

に充分留意して、充実した学校生活を送ってほしいと述べた。

その後、来賓の学園家族会会長金澤裕氏や高校同窓会佐藤広子会長、それに本学・短大在学生代表、幼稚園児代表、在校生代表の挨拶が続いた。そして新入生を代表して佐藤愛美さんが「誓いの言葉」を述べ、最後に全員で校歌を斉唱し式を閉じた。

入学式の翌々日、先輩が新入生を歓迎する対面式が行われ、クラス代表に花束を贈り入学を祝った。そして学業に部活動に共に精進することを誓い合った。

生徒会が歓迎会

生徒会主催の新入生歓迎会が四月二十八日、建学記念講堂で開催された。生徒会長大河原央さんと副会長大原那央さんの挨拶のあと、アトラクションに移った。新体操部の華麗な踊り、弓道部の一糸乱れぬ「フーランよさこい」、マーチングバンド部のドリル演奏、音楽

部のダンス、スポーツ系三年四組の集団演技が次々と繰り広げられた。新

入生二百四十名は心温まる歓迎に拍手で応え友情の輪を広げた。

に充分留意して、充実した学校生活を送ってほしいと述べた。

その後、来賓の学園家族会会長金澤裕氏や高校同窓会佐藤広子会長、それに本学・短大在学生代表、幼稚園児代表、在校生代表の挨拶が続いた。そして新入生を代表して佐藤愛美さんが「誓いの言葉」を述べ、最後に全員で校歌を斉唱し式を閉じた。

入学式の翌々日、先輩が新入生を歓迎する対面式が行われ、クラス代表に花束を贈り入学を祝った。そして学業に部活動に共に精進することを誓い合った。

生徒会が歓迎会

生徒会主催の新入生歓迎会が四月二十八日、建学記念講堂で開催された。生徒会長大河原央さんと副会長大原那央さんの挨拶のあと、アトラクションに移った。新体操部の華麗な踊り、弓道部の一糸乱れぬ「フーランよさこい」、マーチングバンド部のドリル演奏、音楽

部のダンス、スポーツ系三年四組の集団演技が次々と繰り広げられた。新

入生二百四十名は心温まる歓迎に拍手で応え友情の輪を広げた。

に充分留意して、充実した学校生活を送ってほしいと述べた。

その後、来賓の学園家族会会長金澤裕氏や高校同窓会佐藤広子会長、それに本学・短大在学生代表、幼稚園児代表、在校生代表の挨拶が続いた。そして新入生を代表して佐藤愛美さんが「誓いの言葉」を述べ、最後に全員で校歌を斉唱し式を閉じた。

入学式の翌々日、先輩が新入生を歓迎する対面式が行われ、クラス代表に花束を贈り入学を祝った。そして学業に部活動に共に精進することを誓い合った。

生徒会が歓迎会

生徒会主催の新入生歓迎会が四月二十八日、建学記念講堂で開催された。生徒会長大河原央さんと副会長大原那央さんの挨拶のあと、アトラクションに移った。新体操部の華麗な踊り、弓道部の一糸乱れぬ「フーランよさこい」、マーチングバンド部のドリル演奏、音楽

部のダンス、スポーツ系三年四組の集団演技が次々と繰り広げられた。新

入生二百四十名は心温まる歓迎に拍手で応え友情の輪を広げた。

に充分留意して、充実した学校生活を送ってほしいと述べた。

その後、来賓の学園家族会会長金澤裕氏や高校同窓会佐藤広子会長、それに本学・短大在学生代表、幼稚園児代表、在校生代表の挨拶が続いた。そして新入生を代表して佐藤愛美さんが「誓いの言葉」を述べ、最後に全員で校歌を斉唱し式を閉じた。

入学式の翌々日、先輩が新入生を歓迎する対面式が行われ、クラス代表に花束を贈り入学を祝った。そして学業に部活動に共に精進することを誓い合った。

生徒会が歓迎会

生徒会主催の新入生歓迎会が四月二十八日、建学記念講堂で開催された。生徒会長大河原央さんと副会長大原那央さんの挨拶のあと、アトラクションに移った。新体操部の華麗な踊り、弓道部の一糸乱れぬ「フーランよさこい」、マーチングバンド部のドリル演奏、音楽

部のダンス、スポーツ系三年四組の集団演技が次々と繰り広げられた。新

入生二百四十名は心温まる歓迎に拍手で応え友情の輪を広げた。

に充分留意して、充実した学校生活を送ってほしいと述べた。

その後、来賓の学園家族会会長金澤裕氏や高校同窓会佐藤広子会長、それに本学・短大在学生代表、幼稚園児代表、在校生代表の挨拶が続いた。そして新入生を代表して佐藤愛美さんが「誓いの言葉」を述べ、最後に全員で校歌を斉唱し式を閉じた。

入学式の翌々日、先輩が新入生を歓迎する対面式が行われ、クラス代表に花束を贈り入学を祝った。そして学業に部活動に共に精進することを誓い合った。

生徒会が歓迎会

生徒会主催の新入生歓迎会が四月二十八日、建学記念講堂で開催された。生徒会長大河原央さんと副会長大原那央さんの挨拶のあと、アトラクションに移った。新体操部の華麗な踊り、弓道部の一糸乱れぬ「フーランよさこい」、マーチングバンド部のドリル演奏、音楽

部のダンス、スポーツ系三年四組の集団演技が次々と繰り広げられた。新

入生二百四十名は心温まる歓迎に拍手で応え友情の輪を広げた。

に充分留意して、充実した学校生活を送ってほしいと述べた。

その後、来賓の学園家族会会長金澤裕氏や高校同窓会佐藤広子会長、それに本学・短大在学生代表、幼稚園児代表、在校生代表の挨拶が続いた。そして新入生を代表して佐藤愛美さんが「誓いの言葉」を述べ、最後に全員で校歌を斉唱し式を閉じた。

入学式の翌々日、先輩が新入生を歓迎する対面式が行われ、クラス代表に花束を贈り入学を祝った。そして学業に部活動に共に精進することを誓い合った。

生徒会が歓迎会

生徒会主催の新入生歓迎会が四月二十八日、建学記念講堂で開催された。生徒会長大河原央さんと副会長大原那央さんの挨拶のあと、アトラクションに移った。新体操部の華麗な踊り、弓道部の一糸乱れぬ「フーランよさこい」、マーチングバンド部のドリル演奏、音楽

部のダンス、スポーツ系三年四組の集団演技が次々と繰り広げられた。新

入生二百四十名は心温まる歓迎に拍手で応え友情の輪を広げた。

に充分留意して、充実した学校生活を送ってほしいと述べた。

その後、来賓の学園家族会会長金澤裕氏や高校同窓会佐藤広子会長、それに本学・短大在学生代表、幼稚園児代表、在校生代表の挨拶が続いた。そして新入生を代表して佐藤愛美さんが「誓いの言葉」を述べ、最後に全員で校歌を斉唱し式を閉じた。

入学式の翌々日、先輩が新入生を歓迎する対面式が行われ、クラス代表に花束を贈り入学を祝った。そして学業に部活動に共に精進することを誓い合った。

生徒会が歓迎会

生徒会主催の新入生歓迎会が四月二十八日、建学記念講堂で開催された。生徒会長大河原央さんと副会長大原那央さんの挨拶のあと、アトラクションに移った。新体操部の華麗な踊り、弓道部の一糸乱れぬ「フーランよさこい」、マーチングバンド部のドリル演奏、音楽

部のダンス、スポーツ系三年四組の集団演技が次々と繰り広げられた。新

入生二百四十名は心温まる歓迎に拍手で応え友情の輪を広げた。

に充分留意して、充実した学校生活を送ってほしいと述べた。

その後、来賓の学園家族会会長金澤裕氏や高校同窓会佐藤広子会長、それに本学・短大在学生代表、幼稚園児代表、在校生代表の挨拶が続いた。そして新入生を代表して佐藤愛美さんが「誓いの言葉」を述べ、最後に全員で校歌を斉唱し式を閉じた。

入学式の翌々日、先輩が新入生を歓迎する対面式が行われ、クラス代表に花束を贈り入学を祝った。そして学業に部活動に共に精進することを誓い合った。

生徒会が歓迎会

生徒会主催の新入生歓迎会が四月二十八日、建学記念講堂で開催された。生徒会長大河原央さんと副会長大原那央さんの挨拶のあと、アトラクションに移った。新体操部の華麗な踊り、弓道部の一糸乱れぬ「フーランよさこい」、マーチングバンド部のドリル

ようこそ 郡山開成学園へ

新任教職員の方々のご紹介

大学



【新採用】
山形 敏明 准教授
北海道工業大学大学院経済工学
学専攻博士課程修了。工学博
士。日本工業大学大学院経済
学専攻、人間生活学専攻
助手、所長、人間生活学専攻
助手。



【新採用】
鈴木 美由紀 助手
郡山女子大学大学院人間生活
学専攻修士課程修了。二級
食料栄養士。
所長、人間生活学専攻助手、
生活科学専攻助手、学生生活課
長。



【新採用】
横田 和子 助手
郡山女子大学大学院人間生活
学専攻修士課程修了。管理
栄養士、調理師。
所長、食料栄養学専攻助手。

短期大学部



【新採用】
石川 穂子 講師
福島大学教育学部卒業。教
育庁指導主事、最上あさか開
成高等学校を兼任。
所長、短大情報専攻



【本採用】
佐藤 陽子 助手
郡山女子大学短期大学部音楽
科卒業。王川大学通信教育部
卒業。音楽科副学長(二十
四年から)。音楽療法士(二
級)。所長、音楽科(音楽療法
専攻)。



【新採用】
島本 洋子 講師
大阪府立大学卒業後、後援し、
パリ・エコール・ノルマル音
楽院修了。パリ音楽文化学院
音楽講師。音楽資格(日ソ)
取得。所長、音楽科



【新採用】
陣野 是るか 助手
郡山女子大学短期大学部保育
科卒業。幼稚園教諭免許、保
育士。
所長、幼児教育専攻学務担当

附属高等学校



【新採用】
河村 陽子 講師
郡山女子大学家政学部人間生
活学専攻卒業。初等学校教諭
免許。附属高校副学長。



【新採用】
清水 和博 講師
山梨大学大学院工学研究科博
士課程修了。富士通カン
パニーナシステム(株) 退社。
担当教科、理科



【新採用】
青木 麗菜 講師
早稲田大学大学院教育学研究
科修士課程修了。
担当教科、地理、公民



【新採用】
渡部 智太郎 講師
東京理科大学理学部数学科卒
業。
担当教科、数学



【新採用】
重藤 正 講師
日本体育大学体育学部体育学
科卒業。
担当教科、保健体育



【新採用】
三浦 恵子 教諭
郡山女子大学短期大学部保育
科卒業。元附属幼稚園教諭。
担当教科、音楽



【本採用】
園田 智子 教諭
郡山女子大学短期大学部保育
科卒業。同科副学長(二十
六年から)。



【新採用】
横田 美奈 教諭
郡山女子大学短期大学部保育
科卒業。幼稚園教諭免許。保
育士。



【新採用】
金野 千鶴子 助手
郡山女子大学短期大学部音楽
科卒業。音楽科副学長(二十
六年から)。



【本採用】
工藤 雅友 助手
郡山女子大学短期大学部音楽
科卒業。音楽科副学長(二十
六年から)。



【新採用】
工藤 雅友 助手
郡山女子大学短期大学部音楽
科卒業。音楽科副学長(二十
六年から)。

事務局



【新採用】
安藤 麻生 職員
郡山女子大学大学院人間生活
学専攻修士課程修了。
所長、学務部教務課

NEWS 学園ニュース

地域の野菜で安全・安心 食料栄養学科が市民フォーラム

本学主催の第三回市民フォーラムが三月八日、芸術館大教室で開催された。テーマは「身近な食を考える」で今回は「野菜」が主役。宇都宮大学宇田靖教授が「地域の伝統野菜の見直しで地域づくり、人づくり、そして健康づくり」と題して、郡山農業青年会議所の鈴木光一さんが「地域ブランド野菜への取り組み」、本学の庄司一郎教授が「屋上菜園での食と命の教育」、同広井勝教授が「地域食の新たな利用(本学での取り組み)」と題し、それぞれに研究内容の発表や実践報告で地域野菜の安全・安心を強調した。

聴講者は約百名。特に地域ブランドとして開発された「佐助なす」「さきけつ子」「御前人参」「冬甘菜」等に関心が集まり、「農場を見学でみるのか」「商品は市販されているのか」などの質問が相次いだ。



市民の関心が高まったフォーラム

音楽療法の活動 KGC音楽研究会

平成十九年度KGC音楽研究会が三月六日開催された。本学園の音楽関係教職員の研修会で二十四日を迎えた。今回は、名古屋音楽大学教授栗林文雄音楽教育学博士が「音楽療法の理解」と題して講演した。栗林氏は本学でも音楽療法士養成課程で講師を務めている。講演は音楽療法の臨床活動の実践を、音楽の力を使用した緩和ケアとして説明した。参加者は実践を加えての講演に理解を深めた。

銀賞に輝く高校音楽部 第一回音楽アンサンブル全国大会

三月二十一日、福島市音楽堂で第一回音楽アンサンブルコンテスト全国大会が開催された。このコンテストは二名から十六名でハーモニイを奏する大会で、全国から九十六団体が出場した。高校の部に出場した本校音楽部は、先の県大会で一位となり県合唱連盟からの推薦を受けて臨んだ晴れ舞台。演奏曲はジークフリード・ドシュトロパの作曲「アベマリア」(アベ・レジーナ・チェロルム)の二曲。結果は銀賞の八位。本校の持ち味である美しい発声を十分に発揮し、十六名心をひとつにしたアンサンブルが評価された。

飛板飛込で全国四位

大・人間生活学科二年の毛文輝さんは、四月四日から東京都辰巳国際水泳場で開かれた第八十四回日本選手権水泳飛込競技大会で、女子一メートル飛板飛込で四位、三メートル飛板飛込で五位、十メートル飛板飛込で五位の好成績を残した。



満ちやかに一日の和

【短大・生活芸術科】
第五十二回生活芸術科卒業制作展が二月十四日から十九日まで建学記念講堂ギャラリーで開催された。二年生二十八人が二年間の学習成果を発表した。会場には、油彩画、デザイン、CGアート、彫刻、染色の各分野から構想を練り上げて完成した作品六十点が展示された。訪れた人々は、豊かな感性と創作の意欲が溢れ、作品に若人の大きな可能性を感じとり、一点、一点じっくり鑑賞していた。

【調理技術の集大成】
食料科卒業作品発表会
食料科三年四十一名による発表会。結果は銀賞の八位。本校の持ち味である美しい発声を十分に発揮し、十六名心をひとつにしたアンサンブルが評価された。



学園に誇りを表す学生

【附属幼稚園】
「はくとわたしの発表会」
発表会は二月二十日から開かれ、園児たちが保育中に教わり練習した劇やダンスを各組ごとに三日間にわたって披露した。



注目の発表会

【ご冥福をお祈りします】
高橋 哲夫氏
平成二十年一月二十三日死去。八十九歳。氏は元本学園理事長。大学図書館館長、短大文化学科主任教授を務められた。
角 真一氏
平成二十年四月二日死去。四十歳。氏は附属高校美術科主任として勤務。院展に春、秋、通算二十六回入選している。

